

「食道癌の外科」

久留米大学教授 掛 川 暉 夫
久留米大学講師 藤 田 博 正 著
久留米大学講師 山 名 秀 明

千葉大学教授・第2外科

磯 野 可 一

日本の食道癌治療の歴史は、今から約 60 年前の瀬尾・大沢の日本外科学会の宿題報告を初めとして、多くの先達の努力により、今や世界の指導的立場にまで至っている。

著者はこれらの歴史の中で、今から 2 世代前の指導者のもとで、食道癌治療への道を選び、ひたすらに歩んできた 1 人であり、今や日本の食道外科分野の指導的立場にある 1 人である。

そして、久留米大学の教授となり、自分の教室をこの道十数年間にわたって指導してきたその集大成としての 1 つの区切りが、この本の発

刊となったものであろう。

この本を紐解いてみると、食道癌の臨床のすべてとでも言うべきものであり、大きく“総論”と“治療の実際”の 2 つのパートに分かれている。“総論”には、食道癌の病態と外科的診断、全体の約 4/5 を占める“治療の実際”には、術前・術中・術後の各局面における文字どおり実際の事柄が詳述されている。

食道癌の病態の中では、食道癌の発生から始まり、食道癌の病理学的特性、更に免疫組織化学的研究、DNA など、現在研究中の最先端の分野まで含まれている。

しかし何といても、この本で特に圧巻の部分は手術の分野であり、著者が今日まで実際に治療し研鑽を積んできた成果が、細大漏らさず記載されており、食道癌を初めて手掛ける者にとっては良き手引となり、また、一通りの手術ができる者にとっては、この書によって多くのいわゆる“コツ”というものが理解できるようになると思われる。

そして、最後には管理上のポイントがまとめられているが、これが食道癌治療にとって最も大切なことと言っても過言ではない。手術自体の論議はともかく、術後管理は、患者が高齢であり、かつ手術侵襲が高度であることが多いだけに、極めて重要で、これが著者のこれまでの多くの経験をもとにして、要領よくかつ要点が理解しやすく述べられているのはまことにありがたい。

食道癌治療を志すものにとって必読の書としてお勧めしたい。

● B5 判 288 頁 図 197 写真 82
原色図 30 1991 定価 14,420 円
(税込) 〒 300